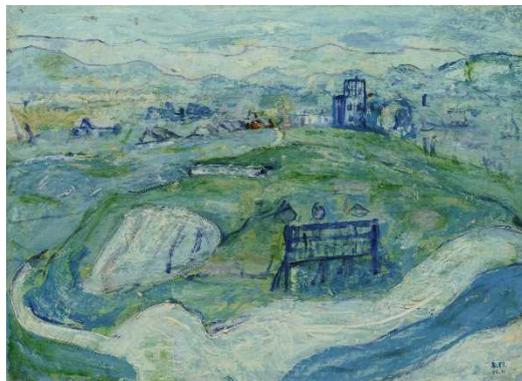


# 「いま、被災地から —岩手・宮城・福島—の美術と震災復興—」

岩手、宮城、福島を代表する美術作品を通して東北の美術の魅力を紹介するとともに、東日本大震災を受けて復興途上にある被災地の美術館や博物館の状況と文化財レスキューをはじめとする救援活動、そして現状の課題を報告します。



福島県富岡町でのレスキュー作業



松本竣介《盛岡風景》岩手県立美術館蔵



柳原義達《岩頭の女》  
陸前高田市教育委員会蔵

## 【基本情報】

会場：東京藝術大学大学美術館（台東区上野公園 12-8）

会期：2016年5月17日（火）～6月26日（日）

休館日：月曜日

観覧料：一般 800 円（600 円）、高校・大学生 500 円（400 円）、中学生以下は無料

\*（ ）は 20 名以上の団体料金

\* 団体観覧者 20 名につき 1 名の引率者は無料

\* 障がい者手帳をお持ちの方（介護者 1 名を含む）は無料

主催：東京藝術大学、全国美術館会議、岩手県立美術館、宮城県美術館、福島県立美術館

共催：NHK、朝日新聞社、東京新聞、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

後援：文化庁

協賛：印象社、ヤマトロジスティクス

お問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）

ホームページ：<http://www.geidai.ac.jp/museum/>

交通案内：JR 上野駅（公園口）、東京メトロ千代田線根津駅（1 番出口）より徒歩 10 分

京成上野駅（正面口）、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅（7 番出口）より徒歩 15 分

**【開催主旨】**

東日本大震災は東北地方沿岸部のいくつかの美術館や博物館にも津波による甚大な被害を及ぼしました。全国美術館会議は、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会の構成団体として、震災後いち早く被災施設に収蔵されていた作品・資料の救出に乗り出しました。さらに2011年秋、多くの作家の協力を仰いでチャリティ・オークションを開き、その収益や全国から寄せられた義援金などをもとに、被災地域の美術館活動への持続的な支援を行っています。事業支援は、損傷をこうむった作品・資料の救出・修復をはじめとする、東北三県（岩手、宮城、福島）と北関東（茨城・栃木）の多様な美術館活動に充てられ、現在までに20件以上の支援事業が実施されています。

東京藝術大学では、震災が発生した2011年秋には「今、美術の力で — 被災地美術館所蔵作品から —」展を開催するとともに、被災文化財の救援と復旧のための募金活動を行うなどさまざまな支援活動を展開してきました。また、この震災で被災した美術品の保存修復作業の一部は、現在もなお大学内で継続して取り組んでいます。

この展覧会は、被災地復興への道程は依然として厳しく遠いものの、震災後5年を経過することを一つの節目として開催します。支援を受けた被災地域の美術館と全国的な連帯をもって支援活動を続けてきた全国美術館会議と東京藝術大学、そして被災地の岩手県立美術館、宮城県美術館、福島県立美術館は、東北の美術の特質とその魅力をご紹介するとともに、この大震災が美術の領域で何を引き起こし、その後美術館はどう行動したかをできるだけ広く知っていただくとともに、今後の復興への理解と協力を得る機会にしたいと考えています。また、チャリティ・オークションに作品を提供して下さった400名余りの作家とその関係者をはじめ、さまざまな機会に義援金や寄附金をお寄せいただいた多くの方々に改めて感謝を捧げる機会にもしたいと願っています。

**展覧会の見どころ****第一部 東北の美術 — 岩手・宮城・福島**

- 三県の県立美術館のコレクションを中心に、岩手県、宮城県、福島県が生んだ近現代の美術作家と、それぞれの県が大切にしている地域に根差した活動を展開した作家を、約70点の質の高い作品で紹介。

**第二部 大震災による被災と文化財レスキュー、そして復興**

- 津波で甚大な被害を受けた陸前高田市立博物館（岩手）、石巻文化センター（宮城）の被災した文化財や美術品のレスキューとその後を報告。
- 津波で大きく損傷した柳原義達《岩頭の女》を展示。岩手県外では初公開。
- 石巻市民の心の支えとしてNHK日曜美術館で紹介され、大きな反響を呼んだ高橋英吉「海の三部作」を、震災後、初めて宮城県外で公開。
- 原発事故により立ち入り制限区域となった福島県浜通り地域での文化財レスキュー活動を写真パネルにより紹介。

## 第一部 東北の美術 ー岩手・宮城・福島

ここでは、東北地方（岩手、宮城、福島）が生んだ近現代の美術作家たちの優れた作品によって、美術文化の豊かな東北の土壌と、そこで育まれた美術表現を紹介します。萬鐵五郎、関根正二、松本竣介、佐藤忠良など、日本近現代美術史の根幹を形成したと評価・位置づけがなされている作家たち、さらに地域が大切にしている作家たちによる質の高い作品も加え、全体を通して「東北の美術」の特質と魅力、そこに込められた精神性を浮かび上がらせてます。

【展示予定作品】54 作家 約 70 点

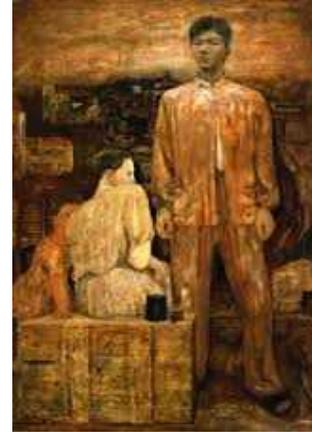
### 【主な出品作品】



萬鐵五郎《赤い目の自画像》岩手県立美術館蔵



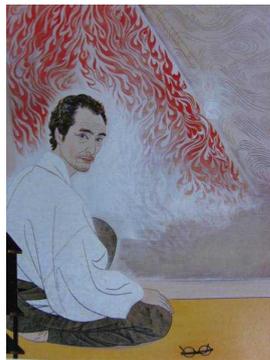
関根正二《姉弟》福島県立美術館蔵



松本竣介《画家の像》宮城県美術館蔵



酒井三良《雪に埋もれつつ正月はゆく》  
福島県立美術館蔵



太田聰雨《二河白道を描く》  
東京藝術大学蔵



荘司福《祈》宮城県美術館蔵

※上記の主な作品を含めて、会期中、展示替えを行う可能性があります。

### 【主な出品作家】

岩手県…佐藤醇吉、五味清吉、橋本八百二、白石隆一、村上善男、福井良之助、本田健など  
宮城県…渡辺亮輔、菅野廉、大沼かねよ、二宮不二麿、宮城輝夫、針生鎮郎、佐藤一郎など  
福島県…角田磐谷、宮川教助、渡部菊二、吉井忠、鎌田正蔵、若松光一郎、田口安男など

## 第二部 大震災による被災と文化財レスキュー、そして復興

高橋英吉の作品をはじめとする郷土ゆかりの美術や、現代の木彫コレクションを形成していた石巻文化センター、美術資料を含む総合博物館の陸前高田市立博物館など津波で被災した美術館博物館の所蔵作品を展示します。その多くは現在、修復途中であるため、現状と修復前の状態の比較、作品救出、応急処置、保護、修復作業の記録をパネル展示すると同時に、それらの美術館が震災後どのように立ち直ってきたか、三県の美術館がどのような活動を展開したかを地域社会との連携の様子とからめながら紹介し、地域に根差す美術館活動の意義を探ります。また、原発事故のために、未だ復興への道筋さえ描けない福島県浜通り地方の文化財等の被災やレスキューの状況も紹介します。これらを通じて、震災が美術館に何をもたらした、どのような影を落としているかを考えるとともに、今後の復興への課題と取り組みについての理解を深める機会となるでしょう。

**【展示予定作品】** 14 作家 約 30 点 この他にレスキュー活動記録写真など約 40 点



陸前高田市博物館でのレスキュー作業



高橋英吉「海の三部作」から  
《潮音》  
石巻文化センター蔵



《黒潮閑日》



福島県浪江町でのレスキュー作業



レスキュー作品の応急処置作業

### 【提示予定作品・資料】

石巻文化センター、陸前高田市立博物館所蔵の美術作品、その他の東北地域の地震被災作品、震災後の被災地域の美術館活動記録、全国美術館会議の支援活動記録など